

## 2016 年頭所感



新年あけましておめでとうございます。  
初春を迎え皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、2016 年を迎えるにあたり年頭のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年医療界では地域包括ケアと地域医療構想という言葉をよく耳にしました。ご存知のとおり、地域包括ケアとは高齢化社会を迎えて、高齢者の方が住み慣れた地域で安心して生活し生涯を全うできるように、医療や介護、保健や介護予防、生活支援サービスなどを行政や多職種が連携し取り組む仕組みのことです。私は亡き父を自宅で看取った経験や思いから、住み慣れた自宅で人生の終末を迎えられる方を少しでも支援できればと考えています。その中心は在宅医療や訪問看護、居宅介護支援となりますが、病院を有する当法人では、病状の悪化や介護が困難となった時の後方病床の役割も果たしています。早い段階から地域包括ケア病棟（病床）を導入し、在宅療養支援病院（在宅療養後方支援病院含む）として、地域包括ケアの中核を担える病院づくりを目指しています。

もう一つの話は、地域医療構想です。これは団塊の世代の方が後期高齢者を迎える 2025 年に、地域の実情に見合った病院病床や在宅医療・介護施設の整備計画を指します。既に埼玉県では構想が策定されつつあり、今後は構想区域単位（当県では二次医療圏）で計画が策定されていきます。当県の特徴としては、多くの方が東京都をはじめ隣接した県外の医療機関に受診（患者流出という）する傾向があります。将来的には、そのような方々が後期高齢者となり県内の医療機関を受診し、治療が完結できる体制の整備が大切になります。限られた医療資源で効率的な入院医療を提供するためには、高度急性期から、広域急性期、地域急性期、回復期、慢性期までの病床が機能的に役割分担されることが重要となります。私共の病院では、地域の急性期医療・回復期リハビリテーション・慢性期療養型までの入院医療と、在宅医療及びその周辺の訪問・介護サービスの提供が、地域における役割であると認識しています。

話は変わりますが、昨年スローガンは「頑張ろう！地域包括ケア」でした。地

地域包括ケア病棟（病床）の導入や、春日部市において在宅医療連携拠点事業の受託など、地域包括ケアシステムの一翼を担えたものと考えています。そして、今年のスローガンは「完成させよう！地域包括ケア」を掲げさせていただきます。スローガン達成のためには、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生方、近隣病院や介護施設まで、行政から多職種にわたる顔の見える連携が大切となります。患者さん、ご家族を中心に、地域の医療・介護関係者の皆様の中で、支えられながら私共は存在していると考えております。絶えず感謝の気持ちを忘れずに利用者本位の医療・介護サービスに努めてまいります。

最後となりますが、皆様とご家族の今年一年のご健勝とご活躍を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

平成 28 年 1 月吉日

聖光会グループ 理事長 西村 直久